

●実際の取組～校内研修の工夫～

○ 児童それぞれの学びに対応する研修

研修では、同じ内容項目の学びづくり案（「子どもがどう学ぶか」という視点で立てた授業案）を低・中・高で比較し、全学年のつながりを見通した。全体を見ることで、児童それぞれがどんな視点や立場で考えているかを教員が把握し、授業に生かすことができると考えている。

低学年 身近	中学年 社会	高学年 国
みんな。 気持ちよく安心。 身近な約束、きまり。	集団、社会の維持発展。 一般的、公の約束やきまり。 (意義)。	社会集団。 法、権利、義務、意義。 公、個 すすんで、 守ろうとする。
身の周りの公共。	社会、公共の場・物。	日常・社会生活。
守ろうとする。	守らなければいけない。	義務を果たそうとする。
工夫して、大切に。 (自分)。	相手、周りの人の。 思い・立場。	互いの権利。
自己中心性(個)。	仲間、自分たち(小集団)。	社会生活(公)。
教材「きいろいベンチ」。 「りんご車」。	教材「雨のバスでいりゆう所で」。 「フィンガーボール」。	教材「ここを走れば」。 「シンガポールの思い出」。

<研修の板書>

道徳教育推進教師の提案内容

まず、この研修の立案を行った。

教員は、授業の中で児童それぞれがどの立場で考えているか把握したり、どのように対応するか判断したりした。

そこで本研修では、同じ内容項目の教材に含まれる道徳的価値を全学年で見通したり、発問を考え合ったりした。また、低・中・高でねらいや内容を比較しやすいワークシートを作成した。

今後も、どのように子どもをとらえ、授業展開を工夫していくか教員同士が活発に議論を行えるよう手立てを増やしていきたいと考えている。

●成果と課題、今後に向けて

成果

- 「自分には良いところがある」の問いに対する児童の肯定的評価が高まってきた。児童全員の良さや変化・成長を見取り、認め励ましてきたからではないかと考える。
- 児童がうなずいたり首を傾げたりしながら本音で向き合い、道徳的価値の大切さを考え合う姿が見られるようになってきた。要因として次のことが考えられる。
 - 「先生は、自分を見てくれている」と安心感をもてた。
 - 互いのいいところに気づき認め合うことで、相手を尊重しながら本音や異なる意見を言える児童が増えてきた。
 - 発問により、児童が立ち止まったりさらに深く考えたりした。
- 教員同士が職員室で子どもの姿や反応から授業づくりについて話し合う姿が見られるようになってきた。

「自分には良いところがある」

アンケート実施時期	肯定的評価
2018年(平成30年)9月	69%
2019年(平成31年)2月	71%
2019年(令和元年)9月	76%



課題

- 道徳科において、事前に教材の挿絵等を学年ごとに準備したり、学年内で教材研究を行って目指す内容項目など共通理解を図ったりしている。一方、他教科に比べ、道徳科の授業展開が固定化しやすい等、「型」にはまる傾向がある。児童や学級の状況・特性に応じた「子どもが主体的に学ぶ道徳科」について、さらに教員間で闊達な議論を進めていく必要がある。

今後に向けて

- 道徳科及び研修を充実するための手立てを行うことで、児童が道徳科での学びを日常生活に生かしていくための支援をすることにつながると感じている。そのためにも、生活の中にある道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、議論しながら、それぞれの答えをみつけたような学びとなるよう取組を進めていく。そして、児童も教員も道徳科や道徳教育が面白い、好きと感じられるように道徳教育推進教師として取り組んでいく。